

「祝福と禍(わざ)の言葉」

詩編1篇1-6

ルカ6:12-26

(1)

マタイ5章から7章は、主イエスが山に登り、座って弟子たちに話された箇所ですが、「山上の説教」といわれてきました。ところが、ルカ6章1-7節では、「彼らと共に山を下り、平らな所にお立ちになられて、主イエスは目を上げて、弟子たちを見つめながら話しかけられた」(6:12)とありますから、マタイとルカとは、お話なされた時の立ち位置がまるで逆なのです。ルカは平地で話されたので、「山下の説教」といってしゃうか。

しかも、ルカ6章では、主イエスの話を聞いていたのは、弟子たちだけではなく、17節から19節を見ますと、多くの病人や、けがれた霊にとりつかれた人びとに囲まれているといわいとは何か「こころをなだめたのであります。」「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあのカール・フッセの詩が思い出されます。山の彼方には虹があり希望がある、と人はいつくばりつづける。「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあの祈りを願うながら、多々の人は叫びをあげます。自分の願うことがかなうが、神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」

、走らされている馬のようなものでしょうか。

「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあの祈りを願うが、神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」

「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあの祈りを願うが、神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」

「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあの祈りを願うが、神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」

「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあの祈りを願うが、神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」

「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあの祈りを願うが、神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」

「こころをなだめたのは、あなた達の聖霊よ、幸い住む人のいふ」という詩で有名なあの祈りを願うが、神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」神の祝福をえぬ「かたは」と「かたは」

違います。英語聖書では「BLESSED」が「祝福」に使われています。そこには「上から祝福を賜わる」というニュアンスが含まれています。

「もう少しお金があれば」「良い人と結婚できれば」「あの学校にはいたら」「もっと良い職場があれば」「家を持てれば」「、などとが叶えられれば、しあわせになれると思っているかもしれません。果たしてそうでしょうか。かりに・・・です、そうした願いが全て叶ったとして、それで必ずしも幸せとなるわけではありません。

神戸の灘区に灘校があります。受験校で有名ですが、首尾良く合格した学生がいました。ところが、それまでの無理がたたったのか、数か月後、重い憂鬱病に罹って立ち直れないままになりました。

三徳田の宝くじが当たれば、ラッキーというものですが。しかし、お金が絡むと、人間関係が複雑になり、自殺した人がおりました。人もうらやむ芸能人のカッパルが、とうとう、あつまで短期間に破局を迎えるようになっていきました。

「富」「健康」「成功」「栄誉」を手に入れている、必ずしも「心」が約束されることには確かありません。

何かと考えますと、あまりに漠然としていて、捉えようがない気がします。なかに、些細な日常のことも含まれます。なかには、「あわは」と「人静かに飲む朝の」

「一杯」という人がいます。そうかもしれません。

「幸福」の英語は、「存知」HAPPYです。「巡り合わせのよさ」FURNANCEの「クック」です。FURNACEは、「燃焼」の「炉」を意味する。BONHEUR（ポネール）は、「間の良さ」です。ギリシャ語の「EUDAIMONIA（ユータイモニア）」は、「良い守り神を持つこと」。「幸福」の「幸」とは、「鎖」につながっていないことであり、「福」とは、「神から与えられた豊かさ」を意味しているといえます。日本語の「シアワセ」とは、「仕合わせ」と書いて、いっしょのことがうまく合わることからきています。

わたしたちは、2020年を新たな思いで迎えました。ところが、2月ごろから悪性コロナの問題が浮上して、あれよあれよという間に、世界中がこれほどの悩ましい問題を抱えるようになるのは、誰れ一人、予想もしませんでした。変転きわまりない世に生きていくのですから、こうして、不可解、不条理な出来事は、身の回りではしばしば起きます。油断できません。その度に、「身構えて」「さいわい」「心」は何かを考えます。ところが、ますます自分なりの考えが広がります。

「見知らぬ人」の共通した点がある気がします。自分ひとりで「あわは」はなれなるといって、ある心理学者は、「もしたら人は幸福になれ



なんの不自由もないと言っているが、「、実は、「みじめな者」・「あわれむべき者」・「貧しい者」・「目の見えない者」・「裸の者」である。「と気がついていな」と主イエスは驚かすことを言われました。

宗教改革者の一人、M・ルターは、「人間はすべて神の前で裸である」と申しました。「食」は「BROTHERS」(「兄弟」)、「飲」は「BROTHERS」(「兄弟」)、「おねだりする者」のことです。人間とは、神の御前に本来あった立場にあるというのです。道端にむしりを敷いて、両手を差して出して、「お恵み下さい。お恵み下さい」と頭を地面にすりつけながらベックする、あの『じじき』のような貧しさを覚えている者・飢え渴いている者こそが、実は「幸いな者」である」と主イエスは言われました。注意すべきは、何時の時代にもまさって、自らの「耽溺(たんでき)」と闘わねばなりません。「耽溺(たんでき)」とは自己満足のことです。自己満足こそは最大の敵といえます。

人口1万7千の周東町は、「獺祭」で一躍有名になりました。その獺祭の社長は、最近、アメリカのニューヨークの水で、「タッサイ・ブルー」を新たに酒造するべくに挑戦した、この記事が出ていました。「これまでの人生は失敗の連続であった。だからこそ成功もあるのです」といいます。彼は決して現状に満足していません。

わたしは「じじき」は「さびしい」と

があります。「ごまだ」とは、今は、ほんの一部しか与(あず)が(わ)れて(ま)せ(な)が、(ち)が(わ)が(す)入(い)る(と)の(豊(とよ)か(か)な(な)と(と)与(あ)る(る)と(と)う(う)期(き)待(た)が(が)あ(あ)る(る)す(す)……、祈(いの)り(り)求(もと)め(め)る(る)こ(こ)と(と)を(を)怠(おろ)して(は)な(な)ら(ら)な(な)い(い)の(の)で(で)す(す)。主(ま)い(い)エ(え)ス(す)の(の)言(い)わ(わ)れる(る)「(わ)ら(ら)い(い)と(と)は(は)、そ(そ)の(の)心(こ)に(に)お(お)こ(こ)し(し)の(の)霊(たま)にお(お)こ(こ)し(し)て(て)、心(こ)貧(ひ)し(し)と(と)な(な)ら(ら)な(な)い(い)と(と)神(かみ)の(の)御(ご)前(まへ)に(に)お(お)こ(こ)し(し)て(て)求(もと)め(め)る(る)者(もの)か(か)」「(わ)ら(ら)い(い)と(と)は(は)あ(あ)る(る)と(と)わ(わ)ら(ら)い(い)と(と)あ(あ)る(る)の(の)ち(ち)が(が)あ(あ)る(る)か(か)。(3)

最後になりましたが、22節以下の主イエスが言われた「さびしい」について見ておきたいと思います。

「人の子のために、人びとがあなたがたを憎む時、また、あなたがたを除名し、はずかじめ、あなたがたの名をあしざまにけなす時、あなたがたは幸いです。その日には、喜びなさい。躍り上がって喜びなさい。天ではあなたがたの報いは大きいからです」(6:22-23)。

人の言葉が気になるものです。気にしているのは、自分に対する評判でしようか、評価でしようか。つまり、自分に対する非難・悪口、あるいはほめ言葉をもききめ、これほど気になるものはありません。

主イエスは、「人の子」のため、人から非難される、そうした辛く悲しく思われる時でも、「喜びなれど。おの上がついに喜びなみにならうとおっしゃるまじか。

て生まれるものとなりてゆいたまは。  
主イエス・キリストの名「お祈り」の祈り。  
「アメン」

「人が、若い時に、くびきを負うことは良し  
くじである。主がこれを負わせられる時、ひ  
との座について黙してゐるがよい。口を閉ぢて  
けよ。あるいは望みがあるであらう。おの  
を撃つ者はおを向け、満ち足らぬままでは  
かしめを受けよ」「これは、エミヤ家歌の章  
27から30節の御言です。牧師としてのわ  
たしが何度も反芻（はんすう）して来た御言  
じや。

勿論、自分の欠点の故に、せしられ・非難  
されるようなことは反省しなくてはなりません。  
非難に耐えるのは、あくまでも「人の子  
のために」・「御名のため」です。自分が悪  
いことをして非難されたことまで、主イエス  
は幸いであるとおっしゃいます。

「キリストの名のためにせしらるるなり、あ  
なたがたは幸いである。クリスチャンとして  
苦しみを受けるのであれば、恥ぢぬことはあ  
りませぬ」(④。マテロ14:1-4-11の)。

ただ神のため、キリストのために生きると、そ  
れで非難されるなり、その時には、十字架の  
苦しみを忍び通した主イエスと共にあつた  
すからす。「お祈り」の祈り、お祈り、お祈り  
「お祈り」の祈り、お祈り、お祈り、お祈り  
。

【お祈り】

天のお父さま、主よ、今朝は「お祈り」の祈  
り目をよめました。自分の「お祈り」の祈  
り求めただけいな兄弟姉妹を覚えて祈る  
べき心で「お祈り」の祈り、お祈り、お祈り、